



市内の山地で見られるニホンカモシカ

9月になって、いつの間にかセミの鳴き声はコオロギの鳴き声に負けてやんで

しまいそうです。小宮ふるさと自然体験学校が開校し、子どもたちの自然体験活動が増えたため、この秋はさらに忙しくなりましたが、私は動物の調査を続けています。

鳥類の観察、記録から、センサーカメラを使用した哺乳類のモニタリングまで行い、市内の動物の生息状況を確認しています。深く調べるほど情報も発見も増えますので、調査にはきりがありません。

今年は天候不順などにより、両生類や渡り鳥の数の変動も目立ちましたが、市内で繁殖するミゾゴイやサンコウチヨウ、一時的に滞在するハヤブサやミコアイサ、渡ってくるコサメビタキなどの鳥類、そして溪流

に住むヒダサンシヨウウオやナガラタゴガエルの産卵など、他にもたくさんの貴重種の生息を確認しました。やはり、あきる野の自然は豊かです。

例えば、私が重点的に調査しているトウキヨウサンシヨウウオの生息調査では、新たに整備したビオトープ（産卵に適している池）を含む32か所で産卵を確認しました。また、市内の水田と深い関わりがあるトウキヨウダルマガエルの分布を調べましたが、田んぼなどの減少とともに個体数が減少してきているようです。

調査を続けることで、この2種類の両生類が絶滅の危機に瀕していることなど、悲しい現実も見えてきます。

他にも、ツキノワグマや

猛禽類の調査も行っています。クマタカの生息状況の他、夏鳥であるハチクマやサンバのモニタリングも行いました。この2種類は東京都に飛来する個体数がとても限られているため、クマタカと同じように絶滅危惧種になっています。

このように、私はあきる野の自然を調べながら、そこで分かったことを、今後とも広報やレンジャー新聞などを通じて紹介し続けたいと思います。そして、この自然の重要さを理解し、自然をより大切にしたいだけけるようになれば幸いです。

人間も自然の一部です。自然を大切にすることで、健全に生活できるようになると思います。